

# ふるさとのお話

## 下横割の お茶ばあさん



△お茶ばあさんの墓

下横割の福寿院に「お茶ばあさん」を祭ったお墓があります。

「お茶ばあさん」は、かんのんぼさつ 観音菩薩の化身だといわれ、せきに悩む人々が、お茶を供えてお祈りすると、たちまちのうちにせきが治るといわれています。

### 菩薩の化身のおばあさん

今から350年ほど昔のことでした。しやうあんじ 上横割の成安寺の逸道いつどうぜんし 禅師というお坊さんは、しんびよ ぜんそくが持病で隠居し、福寿院に住んでいました。ある日、せきに悩むおばあさんがやってきて、「おこもりしてお祈りしたい」と禅師にお願いしました。

老婆は、ほんそん 本堂にこもり、ご本尊に茶をささげ、一心に祈り続けると、間もなく禅師のぜんそくも、老婆のせきも全快しました。その晩、老婆はどこともなく消えてしまい、禅師は、きつと観音菩薩の化身であろうと思くようい、供養を怠りませんでした。

禅師が亡くなって100年あまり過ぎたころです。横割村の百姓長右衛門に一人の姉がありました。姉は、逸

道禅師のぜんそくを治した老婆の化身で、病気により、福寿院の住職の枕もとに現れて死んでしまいました。ねんごろに葬ると、どこからともなく「我は世の人々のせきの病いを救おうぞ」という声が聞こえました。

### 市外からもお参り



大石さん

福寿院の近くに住む、大石幸一さん(68歳)は、「今でも市内はもとより、清水・三島などからもお参りに来るとよ。お礼参りに来ると人も多く、れいけん 霊験あらたかだよ。8月7日が祭典だけど、地元の人が案外知らないね」と語ってくれました。

## 地名の由来 中里



この村は、三方を、西に赤湊川、東に須津川、南を浮島沼に囲まれた中の平地という意味で、中の里つまり中里と呼ばれたのでしょう。

一説では須津庄の村々の中で、ほぼ中央にあるので中里村としたともいいます。根方街道沿いの村の中では最も大きい村落で、天念寺、大坪、長沢、久保、新屋敷、宮組の六つの部落に分かれています。

## 古墳のはなし ⑬

### 古墳と祖先の生活



△市内で一番大きい浅間古墳

### 市内で一番古い古墳 一番大きな古墳は？

市内で一番古い古墳は、比奈の県立吉原工業高校の敷地内にあった「ひがしざか 東坂古墳」です。

東坂古墳は、4世紀の終わりごろから5世紀の初めごろ(1,600年前)のものでした。

また、市内で一番大きな古墳は、増川の「せんげん 浅間古墳」です。

この古墳は、せんぼうこうほうふん 前方後方墳で、全長98m、幅60mほどあり、県東部地方でも最大の古墳です。

古墳は、私たちの祖先がどのような生活をしてきたかを知る上で、大切な文化遺産の一つです。祖先が残した大切な文化遺産をみんなで守っていきましょう。

※16回にわたって掲載した「古墳のはなし」も今回をもちまして終わらせていただきます。

次回から、新たな企画で登場しますのでよろしく……。

## こちら編集室

ゴールデンウィークはどんな過ごし方をしましたか？連休の過ごし方は人それぞれですが、5月は自然に親しむにはもってこいの季節です。大いに自然に親しみましょう。